

長崎県の林業試験研究

長崎県総合農林試験場

1. 沿革・概要

本県における林業部門の研究機関は、林業のみの独立した機関ではなく、農業と一体となった総合農林試験場の中の「林業部」として位置づけられている。

農業部門の研究は、明治31年に「農事試験場」として創設されたが、「研究」、「普及」、「教育」業務を行う組織として昭和36年に、「長崎県総合農林センター」と改組され、林業部は、「育林科」と「林業経営科」の2科10名の組織で発足した。その後、昭和46年に研究部門のみを業務とする「長崎県総合農林試験場」と改組された。林業部門は、昭和56年に木材加工部門を加えるとともに、森林の多面的機能の研究に対応するため、林業経営科が「森林資源利用科」に改称され、現在に至っている。

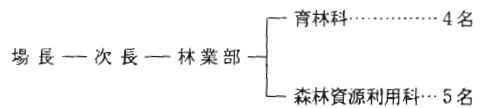
研究内容は、林業をとりまく状況とともに変化しており、当初は、造林、育林、松くい虫防除技術が主体であったが、近年は、環境保全、木材加工、バイテク等が加わり、幅広い研究内容となっている。特に、本県では、雲仙普賢岳噴火災害の復旧に関する研究や、人工林の65%を占めるヒノキに関する研究、離島林業の課題に関する研究等、特色ある研究内容も多く、その成果は、平成8年までの35年間の発表数は、271編に及んでいる。

林業関係の主な施設は次のとおりである。

- (1) 実験林 69.38ha
- (2) 苗畑 1.58ha
- (3) 人工滑場 245㎡
- (4) シイタケ発生舎 100㎡
- (5) 木材利用実験棟 202㎡
- (6) 太陽熱木材乾燥室 33㎡

2. 組織及び人員構成

当試験場は7部2支場で職員数99名、うち研究職60名となっており、林業部門は部長以下10名で、うち研究職は8名である。



3. 研究課題と研究内容及び研究者

平成9年度の主な研究課題は次のとおりである。

課 題	内 容	研究者名
林木の育種と主要樹種の育林技術の確立	1 スギ・ヒノキ品種系統別特性 2 混交林等多面的機能発揮に適した森林造成管理技術の開発	吉 岡 信 一 石 川 光 弘
森林病害虫獣防除技術の確立	1. ヒノキ漏脂病の発生要因解明と被害回避法の開発 2 針葉樹根株腐朽病の発病要因解明と被害回避法の開発 3. キバチ類による被害実態と防除対策 4 野生シカによる被害防除及び生息数推移予測法の確立	久 林 高 市 久 林 高 市 吉 岡 信 一 吉 岡 信 一
林業経営の改善	1 生産森林組合の類型分析と今後の展開方向	七 里 成 徳
森林・林地の機能保全と有効利用	1. 林道法面の木本系植物による緑化 2. 酸性雨による森林衰退モニタリング調査 3. 風害発生危険地域の判定と風害に強い森林施業手法 4. 海岸防災林の造成及び保育技術の開発 5. 普賢岳火山灰廃地における植生導入	黒 岩 康 博 七 里 成 徳 黒 岩 康 博 石 川 光 弘 黒 岩 康 博
食用菌の遺伝資源保存と栽培技術の確立	1 ニュータイプきのこ資源の利用と生産技術 2. シイタケ原木の短木栽培	小 林 資 享 小 林 資 享
木材資源の利用加工技術の確立	1 ヒノキ材を利用した住宅用高機能部材の開発 2. ヒノキ精鋭樹の材質特性	谷 端 省 三 谷 端 省 三